

2024 年度 授業についての満足度調査

1. 調査目的 ①学科の取組について評価する
②授業で身につけるべき能力(学修成果)について評価する
③学生自身の授業への取組みについて評価する
④学修成果がどの程度身についたか評価する

以上の①～④から、学生の授業への満足度を調査することにより、個々の項目を精査し翌年度の授業改善の一助とする。

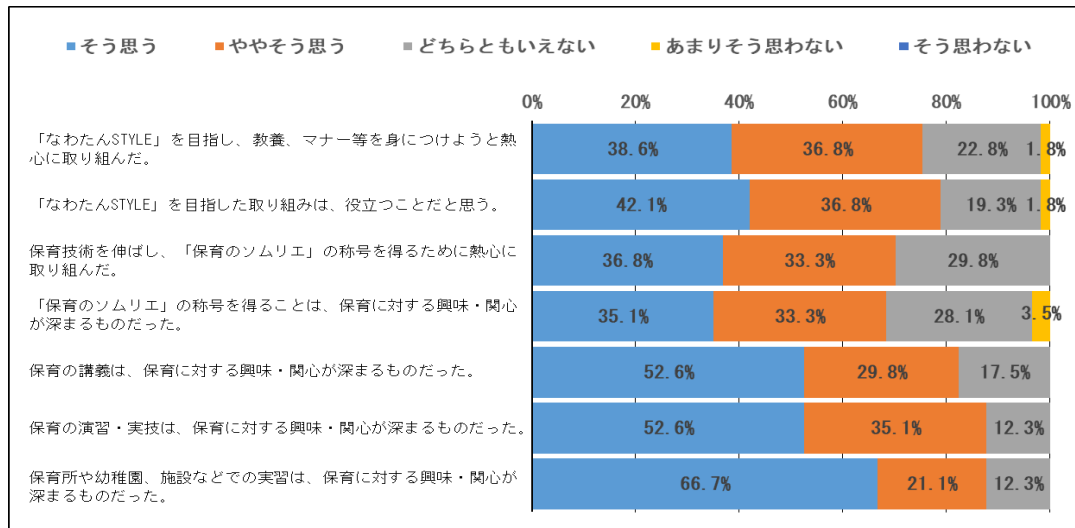
2. 実施期間 2025 年 2 月下旬～2025 年 3 月中旬

3. 調査回答者数 保育学科回収率 1 年生 90.5% (57 人)
2 年生 97.1% (68 人)
ライフデザイン総合学科回収率
1 年生 67.4% (29 人)
2 年生 81.0% (42 人)

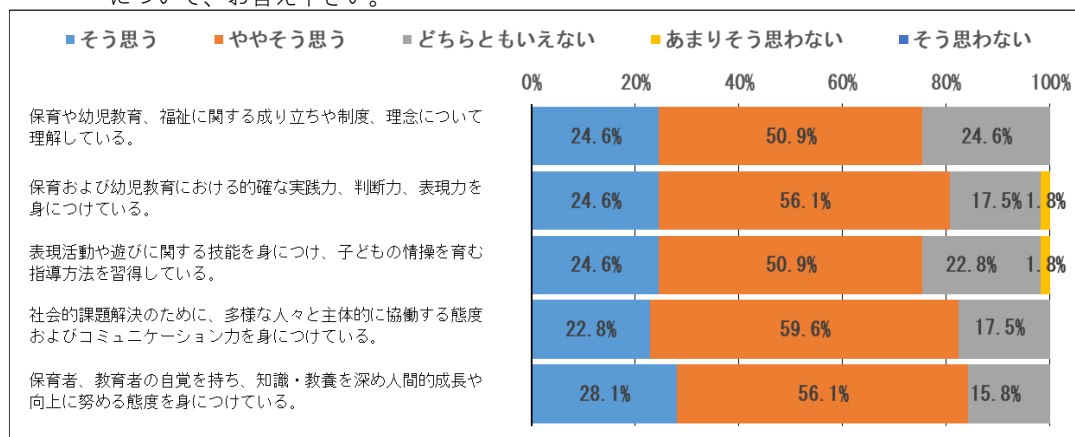
4. 調査方法 無記名のアンケート用紙で実施し、回収、集計等は教学委員が担当。

5. 結果のデータ処理 両学科それぞれの教育内容を意識した質問項目を設定している。
ライフデザイン総合学科設問項目 I 以外では、
“そう思う～そう思わない” の 5 段階評価としてグラフ化した。

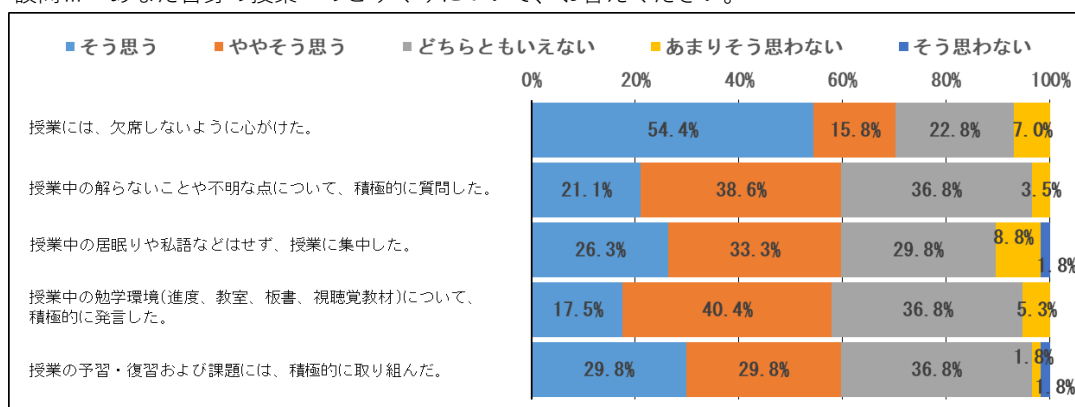
設問Ⅰ 保育学科に関する各項目について、お答え下さい。



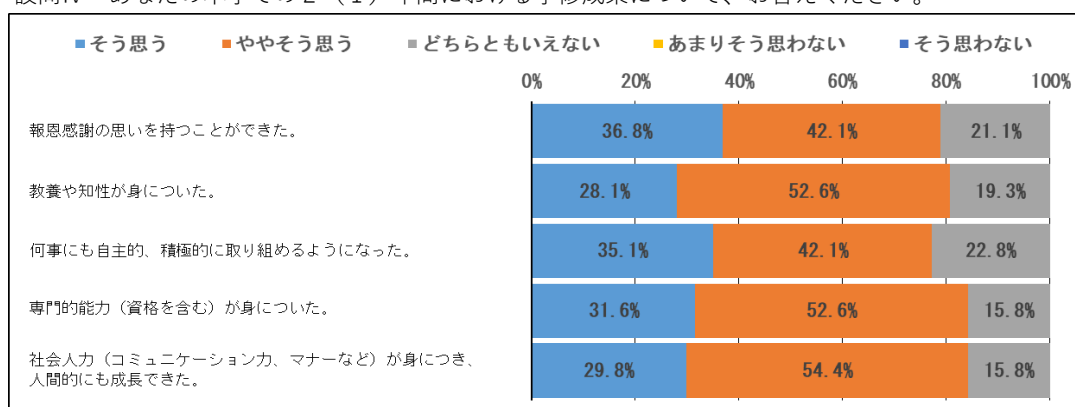
設問Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力（学修成果）について、お答え下さい。



設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



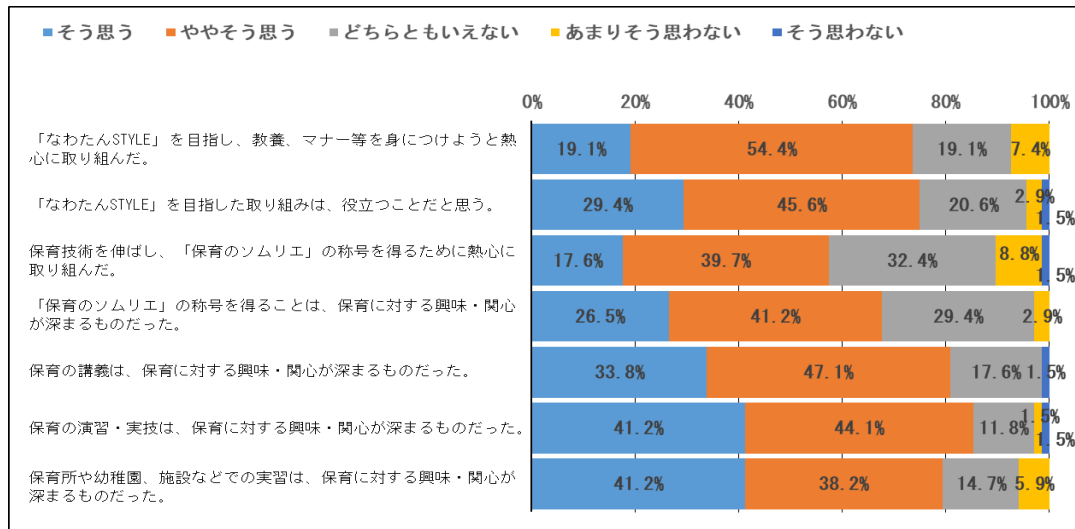
設問Ⅳ あなたの本学での2（1）年間における学修成果について、お答えください。



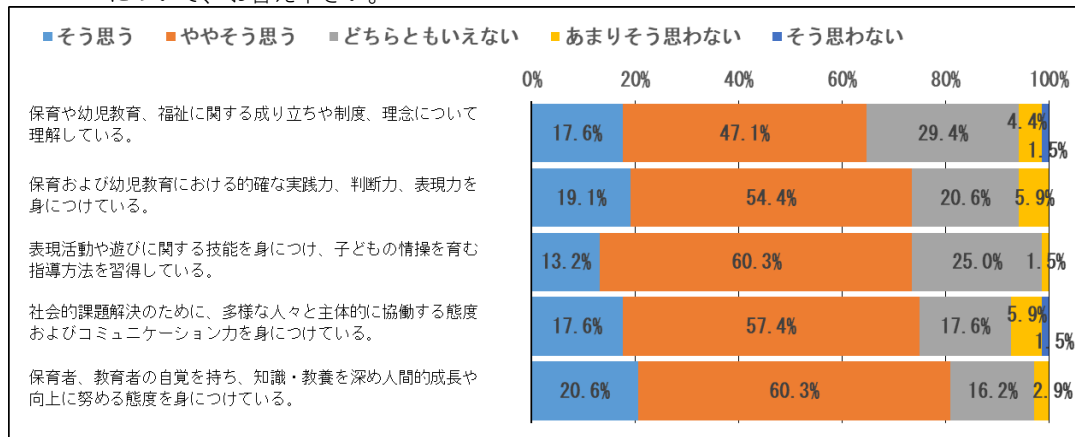
保育学科 2年生

回答率 97.1%

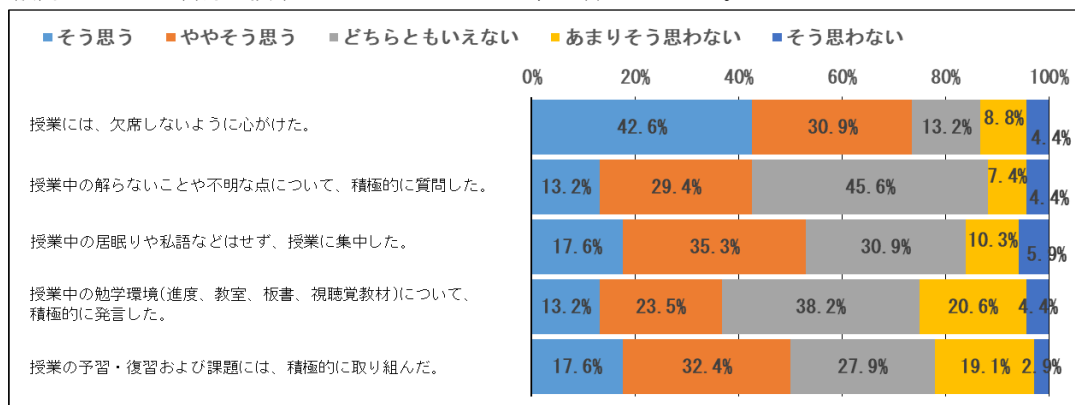
設問Ⅰ 保育学科に関する各項目について、お答え下さい。



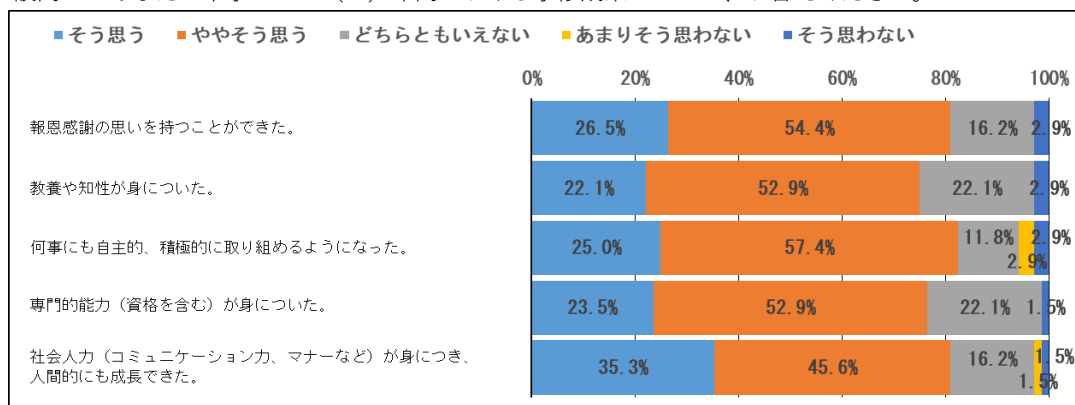
設問Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力（学修成果）について、お答え下さい。



設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



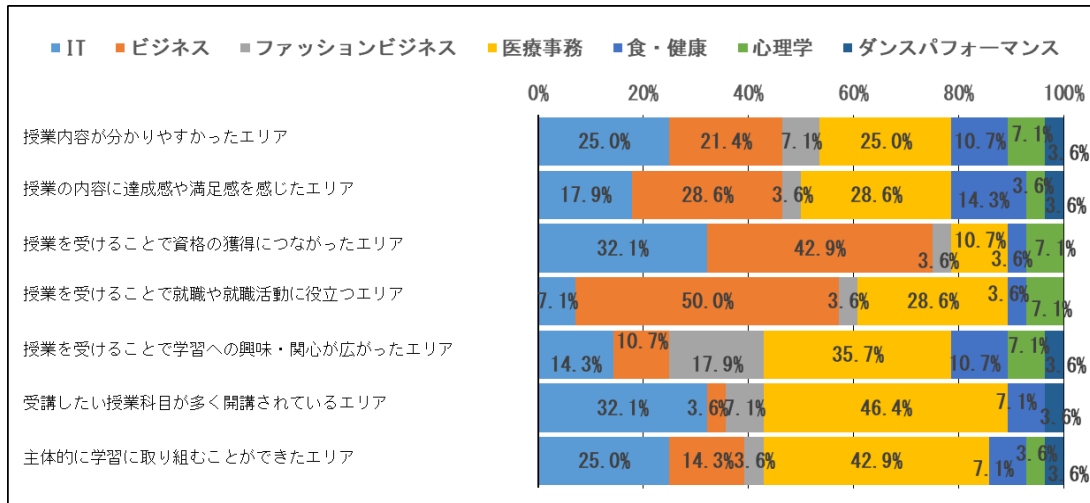
設問Ⅳ あなたの本学での2（1）年間における学修成果について、お答えください。



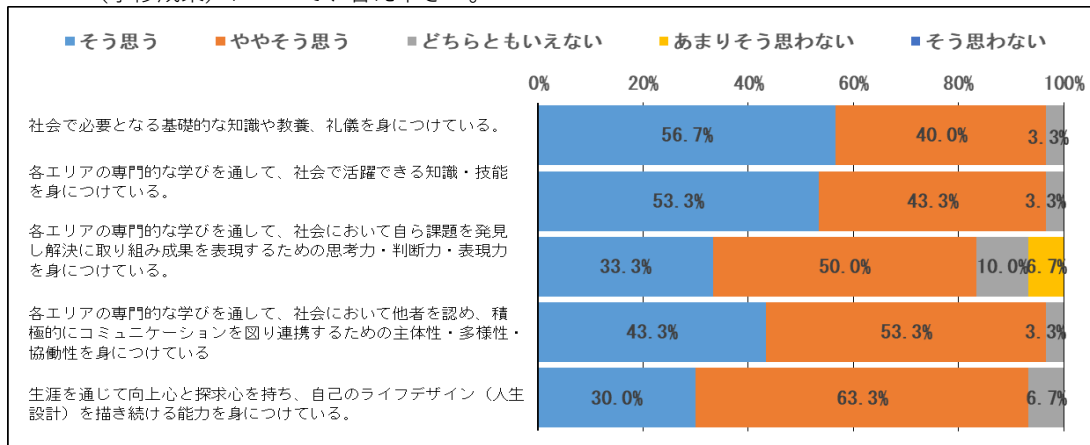
ライフデザイン総合学科学科 1 年生

回答率 67.4%

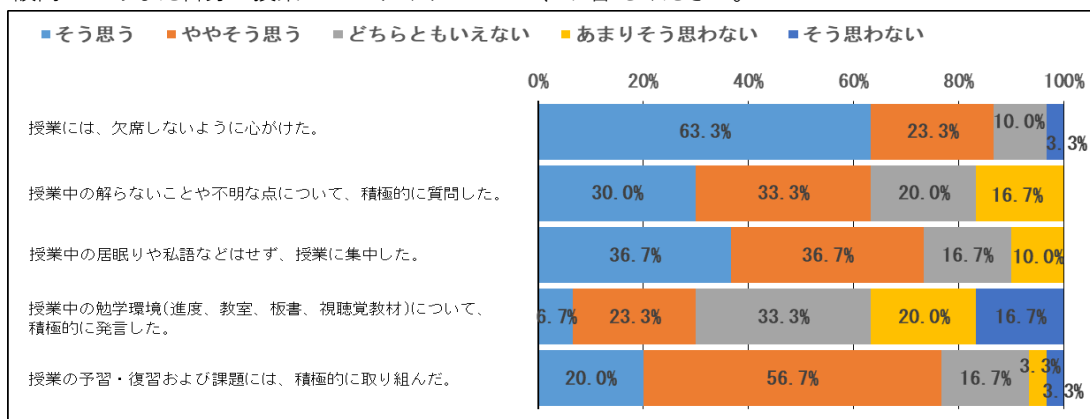
設問Ⅰ ライフデザイン総合学科のエリアについて、お答え下さい。



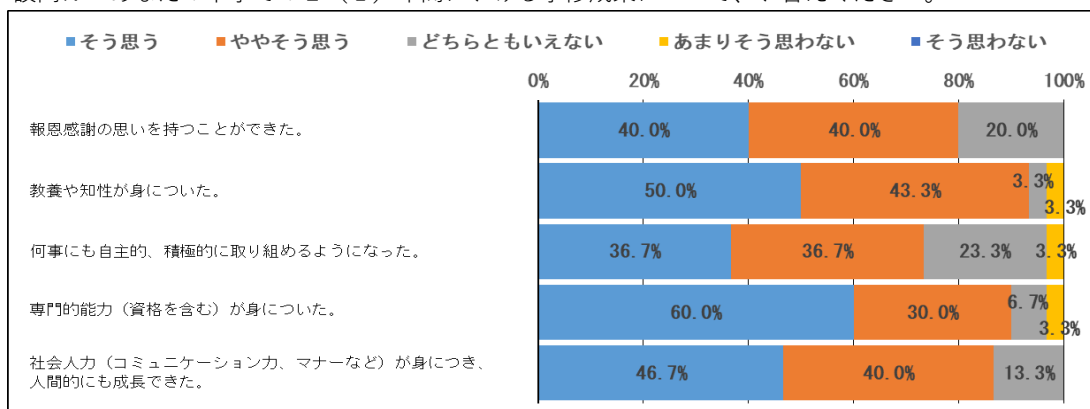
設問Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に着けるべき能力（学修成果）についてお答え下さい。



設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



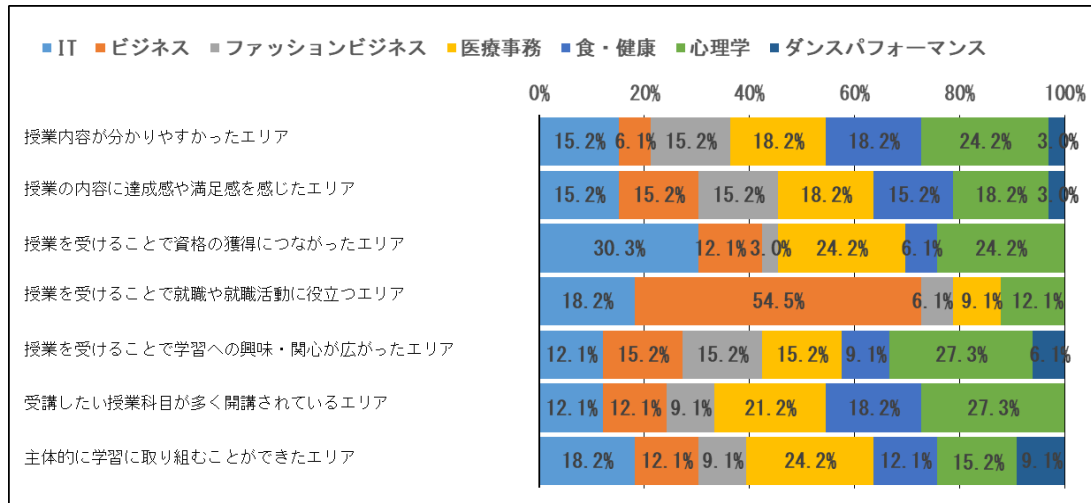
設問Ⅳ あなたの本学での2（1）年間における学修成果について、お答えください。



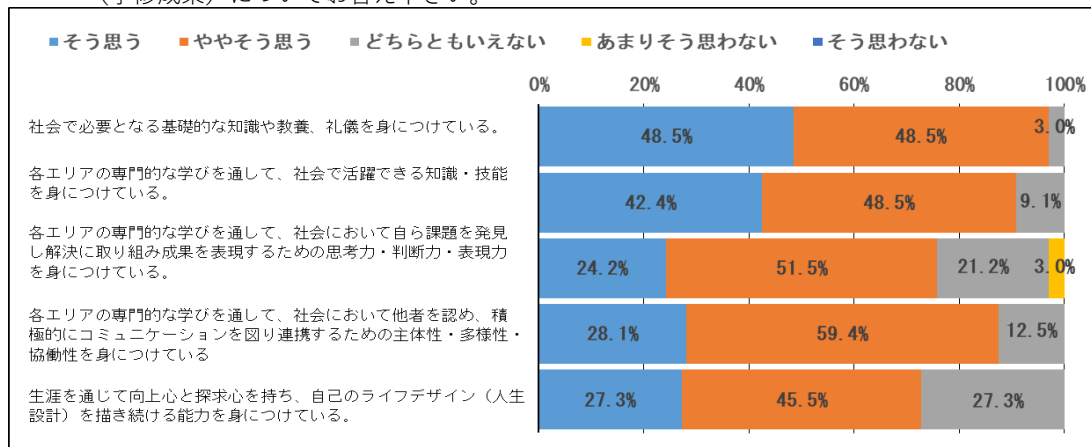
ライフデザイン総合学科学科 2 年生

回答率 81.0%

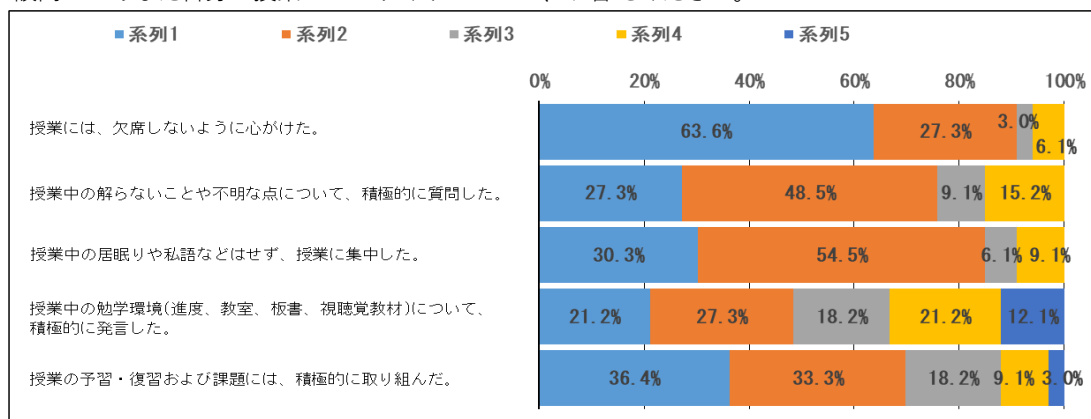
設問Ⅰ ライフデザイン総合学科のエリアについて、お答え下さい。



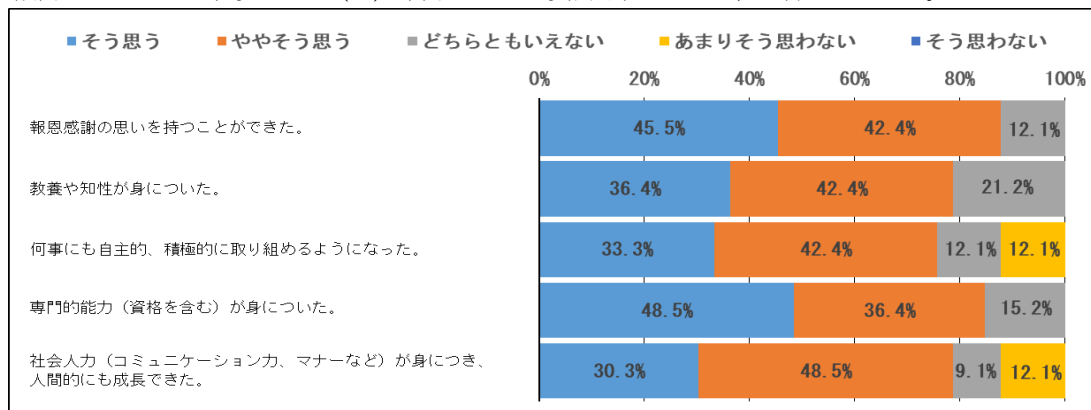
設問Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に着けるべき能力（学修成果）についてお答え下さい。



設問Ⅲ あなた自身の授業へのとりくみについて、お答えください。



設問Ⅳ あなたの本学での2（1）年間における学修成果について、お答えください。



2024 年度 授業についての満足度調査

保育学科調査結果コメント （学科長：工藤真由美）

設問項目Ⅰ 保育学科に関する項目について

本学では、教養、マナー、言葉遣い、挨拶などのできる保育者の育成として「なわたん STYLE」を掲げている。「なわたん STYLE」を目指し、「教養」や「マナー」等を「身に付けよう」と取り組んだかどうかの設問に「そう思う」及び「ややそう思う」と回答したのが1年生、2年生ともに75.0%であった。「なわたん STYLE」の取り組みが「役立つ」かどうかの問いに対して、1年生で79%、2年生で75%が「そう思う」及び「ややそう思う」を選択しており、学生の多くがその必要性を認識し、保育者として身に付けたいという希望が伺える。さらにその必要性を継続的に意識させる仕掛けが、「なわたん STYLE」ノートである。このノートは年間通じて各自で記入しており、各学期末に担任が一人ひとりに対してコメントを記入して返却し、自己の成長の跡を振り返るようにしている。このような地道な作業も「なわたん STYLE」の定着に寄与している。

次に「保育のソムリエ」の取り組みである。本学が設定している独自の「保育のソムリエ」称号を得るために取り組んだかどうかの問いに対して、1年生は70%、2年生の57%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答している。2年生は1年生に比べて、数字が下がる傾向が毎年ある。就職活動などで忙しくなるとは言うものの、就職後にも役立つ「保育のソムリエ」に引き続き取り組んでもらえるような仕掛けが必要である。「保育のソムリエ」への取り組みが保育に対する興味や関心を深めたかどうかの問いについては1年生で68%、2年生が67%となっている。「保育のソムリエ」称号を得るためだけでなく、保育者として必要となる保育技術につながる「絵本ソムリエ」、「工作ソムリエ」、「手遊びソムリエ」、「伝承ソムリエ」の4つの技術（引き出し）を身に付けたいという動機が若干薄れてきているかも知れない。しかしながら、「保育のソムリエ」を活性化させるための方策として各ソムリエの努力成果を視覚化するために「保育のソムリエ」状況の一覧表を作成し、2年次の全体授業の中で披露し、モチベーションの向上を図ったりした。

「なわたん STYLE」、「保育のソムリエ」は本学独自の取り組みである。引き続き、次年度以降も今年度の反省を踏まえて、保育者としてのモデルとなる「なわたん STYLE」、保育者の技術向上のための「保育のソムリエ」を拡充していきたい。

学習形態に関しての設問は、「講義」「演習実技」「実習」それぞれ、1・2年生共に高い数値を示している。「講義」に関して1年生は82%、2年生は81%が、「演習実技」に関しては、1年生は88%、2年生は85%、「実習」に関しては、1年生は88%、2年生は80%の学生が保育に対する興味や関心が高まるかどうかの問いに「そう思う」及び「ややそう思う」と回答している。「講義」「演習実技」「実習」すべてにおいて両学年共に8割を超えている。従来は「実習」が学内学習よりも高い数値を示していたが、座学においても、現場で役立つ内容、実践的な視点を取り入れた内容、アクティブラーニングなど、学生の興味を引き付けた授業が多かった証左となっている。

設問項目Ⅱ 保育学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に付けるべき能力（学修成果）について

5項目全体に関して1・2年生の差違が認められる。何れの項目も「そう思う」、「ややそう思う」の合計は1年生が75%から85%となっているが、2年生は65%から75%と10ポイント以上の差があった。唯一「保育者、教育者の自覚を持ち、知識・教養を深め人間的成長や向上に努める態度を身につけている」だけは、2年生も81%に達している。2年生は、1年次でもこの学修成果の評価が例年の学生よりも低く出ており、学年の傾向であるともいえよう。

5項目のうち例年の傾向として「保育、教育、福祉」に関する成り立ち、制度、理念に関する項目が他項目と比較して数値が低い。しかし1年生はどの項目もまんべんなく高評価を挙げており、例年とは異なる傾向を見せている。次年度への期待が持てる。

また、5項目の教育目標に基づく学修成果は何れも必要不可欠ではあるが、とりわけ、保育者としての「素養」に関しての項目である「保育者・教育者の自覚をもち、知識、教養を深め人間的な成長を高めていく」項目については保育現場に着任しようとする直前の2年生が「そう思う」、「ややそう思う」の合計81%と5項目の中で最も高い。次年度以降も各教員はさらにその数値を高める努力を学修成果のみならず、学生指導全般から見直して向上させていくように取り組んでいかなばならない。

設問項目Ⅲ 授業への取り組みについて

授業への取り組みの結果は1・2年生共に昨年に引き続いて今年度も各項目によって共通する項目と差異が認められる項目があった。まず1・2年生が一致して高い数値を示したのは「欠席しないように心がけた」である。「そう思う」、「ややそう思う」の合計は、1年生は75%、2年生は74%と高い数値となっている。特に1年生は4月当初の新入生ガイダンス時より出席することの重要性を繰り返し説明してきたため、その認識が強く印象づけられたためと考えられる。2年生も欠席が重なれば「失格」に繋がる意識が十分に認知されていたのではないと思われる。

逆に差違が認められる項目は「勉強環境」である。1年生は58%、2年生は36%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答した。特に2年生の数値の低さが顕著であるが、この学年は昨年この項目で低く評価しており、今年度も同様の結果となった。「居眠りや私語をせず授業に集中した」との設問には、1年生は61%、2年生は53%が「そう思う」と「ややそう思う」と回答している。2年生が低く出ていることが気になる。

さらに1・2年生で明らかな違いがあった項目は「予習・復習への取り組み」についてである。1年生は、60%、2年生は50%が「そう思う」、「ややそう思う」と回答した。1年生と2年生で10ポイントの開きがあった。2年生になって予習復習が低調であるのは、残念と言わざるを得ない。次年度への改善に向けて全教員が一丸となり取り組むべき課題である。

設問項目Ⅳ 学修成果について

2年続いて1・2年生とも学習成果に関してすべての項目に比較的高率を示している。5項目全てが「そう思う」、「ややそう思う」を合わせて75%以上となっている。

「報恩感謝」については、1年生は79%、2年生は81%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。建学の精神である「報恩感謝」が1年間（2年間）の学修課程過程のなかで醸成化され、意識化されたことは教員や学生自身が授業中だけでなく、学生生活全般を通じて地道な努力がこの成果に結実したといえる。「教養や知性」に関しては、1年生は81%、2年生では75%が「そう思う」

「ややそう思う」と回答している。2年生のほうが厳しく評価しているようである。「自主的積極的に取り組む」に関しては、1年生は77%、2年生は82%が「そう思う」「ややそう思う」と回答している。2年生はすべての実習、就職活動など、自力で乗り越えた経験が自信につながり高評価に至ったと思われる。「専門的能力（資格含む）」に関しては、1年生は84%、2年生は76%が「そう思う」

「ややそう思う」と回答している。1年次では大半が幼児体育指導者2級などを受験して資格取得を目指したが、2年生では希望する資格なども多岐にわたり、受験しない学生もいるなどばらつきがみられることも評価が分かれる一因となったのかもしれない。「社会人力（コミュニケーション力、マナー）」については、1年生は85%、2年生は81%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、2学年ともに80%を超えていた。コミュニケーション能力やマナーなどに関しては積み重ねであり、学内での働きかけと同時に、実習や対外的な活動の経験が成長につながったのではないかと推察する。入学から2年終了時には、さらに高い数値を得られるように各教員は働きかけていかねばならない。

2024 年度 授業についての満足度調査

ライフデザイン総合学科調査結果コメント （学科長：中川玲子）

設問項目Ⅰ ライフデザイン総合学科のエリアについて

ライフデザイン総合学科には7つのエリア（専門科目群）が存在し、学生は自由にどのエリアからも授業科目を選択し受講できる。それぞれのエリアには、授業を通して取得できる資格や称号があり、中には支援講座となっている科目もある。学生は将来の進路の選択とも照合し、資格や称号取得などを、バランスよく考え、期初の教務ガイダンスを受け、受講科目を選択して履修登録を行う。また、将来の進路や取得希望の資格・称号が未定の学生も現在の興味に従い、シラバスを熟読しながら受講を決定していく。

7つの質問項目のうち「主体的に学習に取り組むことができたエリア」は、1年生も2年生も1位「医療事務エリア」（42.9%、24.2%）、2位「ITエリア」（25.0%、18.2%）で、これらは例年多くの質問項目で上位2つを占めてきたエリアであった。それ以外の6つの質問項目の回答には、学年によっても、質問項目によっても、例年とは異なる多様なエリア選択の傾向が示された。

「授業内容がわかりやすいエリア」について、1年生は1位「ITエリア」と「医療事務エリア」25.0%、2位「ビジネスエリア」21.4%、これに対して2年生は1位「心理学エリア」24.2%、2位「医療事務エリア」と「食・健康エリア」18.2%であった。「授業の内容に達成感や満足を感じたエリア」について、1年生は、1位「ビジネスエリア」と「医療事務エリア」28.6%、2位「ITエリア」17.9%、3位「食健康エリア」14.3%と続いた。2年生は「医療事務エリア」「心理学エリア」がともに18.2%で1位、「ITエリア」「ビジネスエリア」「ファッションビジネスエリア」「食・健康エリア」がともに15.2%で2位を示し、学生はこれら6つのエリアにはほぼ等しく達成感や満足感を感じていた。一方「授業を受けることで資格の獲得に繋がったエリア」については、1年生が示した「医療事務エリア」42.9%が最も高い率であった。「ITエリア」は、1年生 32.1%（2位）、2年生 30.3%（1位）で、全体の約3割の学生から、資格取得に繋がったと評価された。「授業を受けることで就職や就職活動に役立つエリア」の1位は、両学年ともに「ビジネスエリア」で、1年生 50.0%、2年生 54.5%であった。2位は、1年生「医療事務エリア」28.6%、2年生「ITエリア」18.2%であった。

「授業を受けることで学習への興味・関心が広がったエリア」と「受講したい授業科目が多く開講されているエリア」の1位は共通で、1年生「医療事務エリア」（35.7%、46.4%）、2年生「心理学エリア」（27.3%、27.3%）であった。特筆すべきは「授業を受けることで学習への興味・関心が広がったエリア」の2位について、1年生は「ファッションビジネスエリア」17.9%、2年生は「ビジネスエリア」「ファッションビジネスエリア」「医療事務エリア」の3つ（何れも15.2%）が占め、1年生も2年生も「ファッションビジネスエリア」が昨年度（1年生4位、2年生5位）より順位を上げ、2位に位置していたことである。

なお、今年度の特徴的であった多様なエリア選択の傾向について、今後も注視していく。

設問項目Ⅱ ライフデザイン総合学科の教育目標に基づき、学生が各授業科目で身に着けるべき能力（学修成果）について

1年生は「基礎的知識や教養礼儀を身につけている」、「社会で活躍できる知識技能を身につけている」、「思考力判断力表現力を身につけている」、「主体性多様性協働性を身につけている」、「ライフデザインを描き続ける能力を身につけている」というすべての学修成果について、そう思う、ややそう思う、の合計が、2年生 75.7%から 97.0%、1年生 83.3%から 96.7%と、何れも高い数字を示している。また、1年生、2年生ともにすべての項目について、思わないと回答したものが皆無であることは、学習成果の一つとして評価できる。

特に1年生は「基礎的知識や教養礼儀を身につけている」の項目はそう思うが、56.7%、「社会で活躍できる知識技能を身につけている」の項目は、そう思うが、53.3%で、1年間の学びで半数以上の学生が自信をもって評価していることがうかがえる。特に入学直後から礼儀マナー教育に力を注いでいることや、専門エリアの学びから社会で活躍できる知識、技能の獲得が一定の評価を受けたものと思われる。さらに、1年生の「ライフデザインを描き続ける能力を身につけている」の項目は、そう思う、ややそう思う、の合計が 93.3%で、多くの学生が2年間の学びの折り返し地点ですでにこのように評価していることを、大変喜ばしいと思う。

設問項目Ⅲ あなた自身の授業への取り組みについて

1、2年生とも同じような回答の傾向であった。「授業に欠席しないように心がけた」はそう思う、ややそう思う、を合わせて1年生 86.6%、2年生 90.9%であった。「積極的に質問した」1年生 63.6%、2年生 75.8%、「授業中私語せず集中した」1年生 73.4%、2年生 84.8%、「勉強環境について積極的に発言した」1年生 40.0%、2年生 48.5%、「予習復習課題には積極的に取り組んだ」1年生 76.7%、2年生 69.7%、いずれもそう思う、ややそう思う、の合計の数字である。「予習復習課題には積極的に取り組んだ」の2年生の数字がやや低いのが残念である。

今後、学年を問わず、積極的な予習復習を促す仕組みと、シラバスに記載した予習復習の実行チェックを機能させることが必要である。

設問項目Ⅳ あなたは本学での2（1）年間における学修成果について

そう思う、ややそう思うという積極的回答についてみると、「報恩感謝の思いを持てた」の項目は、1年生が 80.0%、2年生が 87.9%、「教養や知性が身についた」の項目では、1年生が 93.3%、2年生が 78.8%であった。また、「自主的積極的に取り組めるようになった」が、1年生で 73.4%、2年生で 75.7%となっている。「専門的知識（資格含む）が身についた」の項目では、1年生が 90.0%、2年生が 84.9%となっている。1年生、2年生ともに資格取得を達成できた様子がうかがえ、学科として掲げている資格取得の成果が数字として表れている。「社会人力が身につき人間的に成長できた」

については、1年生が86.7%、2年生が78.8%であった。

なお、すべての項目について、1年生、2年生ともに、そう思わないと回答したものが皆無であったことも含めて、このように学修成果が示されたことは大変喜ばしい。今後も各質問項目の満足度を維持、向上させるように努めていく。